

屋根設置型ソーラーパネルの停電時の電力確保について PART 2

PART 1の続きです・・・これを利用しないのはもったいないです。

太陽光発電システムには、①連携運転 ②自立運転の2系統がある
通常は①の連携運転であるが、停電時は②自立運転に切替える事で
昼間、天候にもよるが 100V 1000W前後の電気を使用できる。

(貼付の事例は、100V*1500Wの最大15A使用可能と表示)

以下はその代表的な切替方法(復電後の対応はPART 1を参照)
停電時(売電も停止します)

- ① 「運転/停止」ボタンを押し、運転を停止する
→ 表示が消える (パワーコンディショナーが運転を停止)
- ② 「太陽光発電システム専用ブレーカ」をOFFにする
→ 通常は家庭用の分電盤の近くに別個に設置
- ③ 「運転/停止」ボタンをもう一度押す
- ④ 「自立運転」のランプが点灯する
- ⑤ 約10秒後に自立運転用コンセントを利用して
100Vの電力が利用可能

右図の⑤に電源コード
の接続用コンセントを
利用します。
(メーカーで異なる位置)

少し長めのコードを
準備します。

昼間の太陽が出ている時
に以下の利用が可能です。

- ① お風呂に水が入っていれば、LPガス・灯油のコントロールを運転して入浴
- ② 浄化槽への空気供給ブローの運転
- ③ 家電等の運転(優先を決めて使用)
昼間自宅に居る場合は、この電力の範囲内で電気を使用する
→ それぞれの機器の仕様書を確認して、組合わせて使用する
→ 冷蔵(凍)庫等は夜間に出来るだけ冷気を逃がさないで使用する
天候に左右されるので、「電圧降下」でエラーが出る機器もあります。
(太陽が出てきたら「リセット」を忘れずに)
- ④ 「昼間」自宅に居ない場合は、蓄電させて夜間に使用する
これには以下の仕組みを理解した上で日常的に使用して慣れておく必要があります。

(小さなソーラーパネルと組合わせて日常的に使用すると節電効果あり)

